

中国5県コロナ対応緊急支援助成（第2期）

公募結果

■ 概要

選考結果	採択
団体名	特定非営利活動法人とりで
代表者名	金本 秀韓
申請事業名 主題	コロナ対策としてのこども宅食を軸とした地域の子育て世帯に対する子ども虐待予防活動
申請事業名 副題	
エリア／テーマ	【山口県】実行団体のハード整備と組織基盤強化を通じた、必要とされている方への食支援事業
解決すべき社会課題	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
申請事業の概要	<p>当法人が活動を展開している地域はひとり親世帯も多く、コロナ禍による収入減が予想される。また、外出自粛等により子どもが家庭にいる時間が増えたことで、保護者の育児負担も増えている。このような状況やコロナ禍による先の見えない不安から、全国的にも虐待の発生件数の高まりがみられている。さらに、人とかかわる機会の減少が保護者の孤立化を強め、家庭という閉鎖的な場所での問題に外部が気付けないこともある。上記のような問題状況を踏まえて、食事を各家庭に届ける「宅食」の活動を下記の次第で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口県岩国市で2地域、広島県大竹市で1地域の計3地域でエリアとして実施。 ・当法人が取り組む子ども食堂や学習支援等の活動を通して関わりのある家庭や法人が子育て相談にのっている家庭から希望者を募り、市内の飲食店で購入したお弁当を法人職員が届ける。 ・宅食により、食事の支援だけでなく保護者の家事負担軽減や家庭内でのコミュニケーション促進も図りつつ、法人が支援ニーズを把握して必要に応じさらなる支援につなげていく。
事業実施地域	山口県岩国市平田中学校区・川下中学校区、 広島県大竹市大竹中学校区
申請事業期間	(開始月)2021年6月～(完了月)2021年12月
申請助成額	2,170,000円 【内訳】直接事業費 1,833,000円、管理的経費 337,000円

■ 審査コメント

- ✓ 設立5年で事業規模が1億円を超え、事業収益だけでなく寄付募集にも広く取り組んでおり、事業体として出木過ぎなくらいの印象を持っている。申請案件についても良いと思う。
- ✓ 事業実施にあたっては、ボランティアや市民などの参画を図ってほしい。コロナ感染拡大防止のため人が集った取り組みはまだ難しいかもしれないが、期待したい。
- ✓ 組織が手掛ける事業規模に対して、今回は堅実な助成額だったがよかったか。
- ✓ 活動実績は問題なし。財源にも多様性がみられ、組織としての継続性もあると思う。
- ✓ 宅食ということでコロナ禍に合った事業内容と思われる。宅食を通じて社会を変えていく、という観点で1歩先の支援を目指して活動してもらえということない。
- ✓ いわゆるフードバンクというよりも、今回は購入した弁当の配布という事業内容となっている。購入を通じて、弁当業者への間接的な収入につながる取り組みにも見え、気になった。
- ✓ 上記のような懸念もあるが、現状としては弁当業者もコロナで持続的な経営が厳しい状況にあることを考えると、弁当購入という宅配の取り組みは1つのコロナ対策とも考えられる。
- ✓ 今回の申請で主な助成金の使途は車両の購入となっているが、コロナ緊急支援という1年間限定の助成事業であるため、使途の妥当性も気になるところ。
- ✓ 車両については助成期間終了後も活用できるものであるため、コロナ禍が落ち着いたのちも必要とされる食支援の取り組みでしっかり活用することをぜひお願いしたい。